

事業所職員

児童発達支援自己評価表

平成30年度の児童発達支援ガイドラインに沿った自己評価を実施し、弊事業所の工夫点と今後の改善事項について整理しましたのでご報告申し上げます。ご意見、ご相談がございましたら職員までお声かけください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>		体を十分に動かせるスペースが少ないですが、プレイルーム等で活動する時間を取り入れています。
	2	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		<input type="radio"/>	いろんな活動をすべてワンフロアで実施しています。子どもさんの見守りにはメリットとなりますが、活動の切り替えや他児との関係性の配慮を要する時もあり、目隠しやカーテンなどを利用しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	<input type="radio"/>		毎日、開所前に環境整備実施しています。さらに療育に必要な空間を確保するため、整理整頓のための棚を検討中です。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		<input type="radio"/>	準備を整えています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<input type="radio"/>		

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		子どもさんの発達状況については、発達テスト等を参考に把握しています。支援に必要な情報を得るため、さらにアセスメントしやすい内容を検討しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		毎日時間が確保されている状況ではありませんが、必要な情報と課題の検討はしています。今後、業務整理も必要と考えています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		記録内容は、子どもの個別支援計画に沿って残すようにしています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		市町村の子ども支援担当や保健センターとは常に情報交換や共有をしています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		主として、重度心身障害児をうけいれていますので連携し支援を提供しています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		同施設内の主治医であったり、他医療機関の医師とは地域連携室を通じて連携をしています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		子どもさんの様子に応じて、担当者連携会議を実施しています。また、定期的な事業所間の連携会議も実施しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		行事の中で遠足等を計画し、地域の子育て広場や保育園の子どもたちと交流する機会を作っています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		重度心身障害の子どもさんの利用が主であるため、医療的ケア部会、在宅支援部会へは積極的に参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか		○	希望がある場合は、都度子どもさんへの関わり方について助言をしています。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者会があります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月「お便り」や行事案内は作成し、保護者にお伝えしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		戸外活動での挨拶等、地域の方と触れ合うような対応を心掛けています。行事案内や広報活動は、今後積極的に取り組んでいきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			

非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者から聞き取りで確認し、対象となるお子さんには、医師の指示に基づきアレルギー除去食を提供しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事象発生時は作成し、医療安全委員会へ報告しています。職員間で内容の共有をしています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		院内研修での周知、権利擁護推進委員会に参加しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		身体拘束等防止マニュアルによる「やむを得ない理由による身体拘束」の内容について、子どもさんの個別支援計画に1文記載していますが、今後さらに内容を充実していきます。

平成30年12月末日

京都府立舞鶴子ども療育センター「ひかり」
管理者 四方 あか